

ICOM

取扱説明書

ウイズコール  
**Withcall**

特定小電力トランシーバー

**IC-4008**



Icom Inc.

# はじめに

このたびは、IC-4008をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本機は、技術基準適合証明に認定された、特定小電力トランシーバーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。お読みになったあとも、いつでも読めるよう大切に保管してください。

---

## 標準構成

---

- IC-4008 (無線機本体アンテナ付き、電池含まず) — 1
- ベルトクリップ ————— 1
- 取扱説明書 ————— 1

### ■電源用電池について

本機の電源には、単3形乾電池(3本、4.5V)または別売品の充電式バッテリーパックをご使用ください。

乾電池で運用される場合、**アルカリ電池のご使用をおすすめします。**

※市販されている乾電池には、マンガン電池など数種類ありますが、本機にはアルカリ電池が適しています。

◎**アルカリ電池の運用時間(寿命)**は、送信1分、受信1分、待ち受け8分(1:1:8の時間比)の割合で使用した場合、**約60時間**です。

# 目次

1 安全上のご注意	3
2 ご使用前の準備	11
3 各部の名称と機能	13
■前面部	13
■表示部	15
4 交信のしかた	16
■交信時のアドバイス	18
5 圏内確認のしかた	19
6 グループ機能の使いかた	20
7 ベル機能の使いかた	21
1.ベル音の種類を設定する	21
2.接続確認用ベルの使いかた	21
3.呼び出しベルの使いかた	22
8 その他の便利な機能	23
1.モニター機能の使いかた	23
2.電池の残量表示について	23
3.キーロック機能の使いかた	24
4.ワンタッチPTTの使いかた	25
5.ビープ音のON/OFFのしかた	25
6.オートパワーオフ機能の設定	26
7.その他自動的に動作する機能	26
9 別売品とその使いかた	27
1.バッテリーパックBP-202について	28
2.急速充電器BC-119Lについて	29
■充電のしかた	29
3.スピーカーマイクHM-75Aについて	31
4.スピーカーマイク/ヘッドセットについて	32
10 保守について	33
■故障かな?と思ったら	33
■リセットのしかた〔初期状態に戻す〕	34
■アフターサービスについて	35
■日常のお手入れと点検について	36
11 定格	37
操作の早見表	38

# 1 安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用前に必ずお読みください。

- ◎ここに示した注意事項は、使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい事項を示しています。
- ◎次の「△危険」「△警告」「△注意」の内容をよく理解してから本文をお読みください。
- ◎お読みになったあとは、いつでも読める場所に、大切に保管してください。

## ■ 無線機本体について

### 危険

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

- 引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。引火、火災、爆発の原因になります。

### 警告

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

- 航空機内や病院内などで使用を禁止された区域では、絶対に使用しないでください。  
電波障害により運航の安全に支障をきたしたり、医療機器が誤動作、故障する原因になりますので電源を切ってください。
- 製品の分解や改造は、絶対にしないでください。  
火災、感電、故障の原因になります。  
なお、分解や改造は電波法でかたく禁じられています。

- **大きな音量でヘッドホンやイヤホンを使用しないでください。**  
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与えることがあります。
- **万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常状態のまま使用しないでください。**  
そのまま使用すると火災、感電、故障の原因になります。  
すぐに電源を切り、バッテリーパックを取り外したのち、販売店または、弊社営業所サービス係に連絡してください。

 **注意**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- **無線機をぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。**  
落ちたり倒れたりして、火災、けが、故障の原因になります。
- **直射日光のあたる場所やヒーター・クーラーの噴き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**  
変形、変色、火災、故障の原因になります。
- **水につけないでください。**  
本機は日常生活防水構造(JIS保護等級4防まつ形)ですが、水につけると、感電、故障の原因になります。
- **指定以外の別売品を接続しないでください。**  
発熱、故障の原因になります。
- **テレビやラジオの近くで送信しないでください。**  
電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。
- **機器内部に金属物や異物を入れないでください。**  
火災、感電、故障の原因になります。
- **指定以外のバッテリーパックや電源を接続しないでください。**  
火災、感電、故障の原因になります。

# 1 安全上のご注意

## ■バッテリーパックBP-202 について



下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、破裂、発火、発熱、感電、火傷、液漏れの原因になります。

- 専用充電器BC-119L以外で充電しないでください。
- バッテリーパックは、本機以外の機器に使用しないでください。
- 火の中に投げ入れたり、加熱したりしないでください。
- 半田付けをしたり、加工しないでください。
- プラス(+)とマイナス(-)を針金などの金属類や導電性のあるもので、接続しないでください。
- 火のそばやストーブのそば、炎天下などの高温になる場所で使用、充電、放置しないでください。
- ◆ 電池の液が目に入ったときは、こすらないでください。失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。



下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液漏れの原因になります。

- テープを巻きつけたりして加工しないでください。
- バッテリーパックの上に工具などの金属や導電性のあるものを置かないでください。また、導電性のあるものといっしょに持ち運んだり、保管しないでください。
- 電池をぬらしたり、水につけないでください。
- 電池を分解したり、改造しないでください。

 **注意**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液漏れ、サビ、性能や寿命の低下の原因になります。
- +10～+40℃の温度範囲以外では、充電しないでください。
- 高温になる場所で使用したり、放置しないでください。
- 寒い戸外で充電したり、冷えたままで充電しないでください。
- 強い衝撃を与えたり、投げつけたりしないでください。
- 指定時間以上充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源スイッチを切ってください。
- 無線機を長時間使用しないときは、バッテリーパックを取り外し、周囲温度が-20℃～+35℃で湿気の少ない場所に保管してください。
- 乳幼児や子供の手が届かない場所で使用、保管してください。

# 1 安全上のご注意

## ■ 充電器BC-119L について



下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、破裂、感電、発火、発熱、火傷、液漏れの原因になります。

- 指定以外の電源に接続しないでください。
- 指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
- 乾電池類を入れた無線機は充電しないでください。〔注〕
- 充電器を分解したり、改造しないでください。
- バッテリーパックのプラス(+)とマイナス(-)の極性をまちがえないでください。

〔注〕乾電池類とは、乾電池およびアルカリ電池、マンガン電池などを含む充電ができない電池のことです。



下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。

◎下記の事項を守らないと、火災、感電、発熱、火傷、けが、故障、液漏れの原因になります。

- 充電器に水を入れたり、ぬらさないでください。また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に触れないでください。
- 電源コードや接続ケーブルの上に乗ったり、重いものを乗せたりしないでください。
- 電源コードや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱しないでください。
- 電源コードや接続ケーブルが傷ついたり、ACコンセントの差し込みがゆるいときは使用しないでください。



- 充電器の充電端子部に金属類を差し込まないでください。
- 乳幼児や子供の手が届かない場所で使用、保管してください。
- 万一煙が出ている、変なおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。  
すぐにACコンセントから電源コードを抜き、販売店または弊社営業所サービス係に連絡してください。

 **注意**

下記の記載事項は、これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- ◎下記の事項を守らないと、火災、感電、発熱、液漏れ、故障の原因になります。
- +10～+40℃の温度範囲以外では充電しないでください。
- 直射日光のあたる所、ヒーターやクーラーの噴き出し口など、温度変化の激しい場所で使用、保管しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所で使用、保管しないでください。
- 指定時間以上充電しないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源コードを抜いてください。
- 保管するときは、-20℃～+60℃の範囲で湿気の少ない所に保管してください。

## 取り扱い上のご注意


- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上使用しなかったときは、必ず充電してください。
- バッテリーパックが満充電になったあと、短時間運用して繰り返し充電すると、見かけ上電池の容量が低下した状態となり、電池を劣化させる原因になります。  
このときは、完全に放電(電池を完全に使いきった状態)してから充電してください。
- 機器を極端に寒いところから持ち込んだとき、結露することがあります。  
結露したときは、水分を拭き取ってからご使用ください。
- 充電器の充電端子部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがあります。  
ときどき充電端子部を、清掃してください。
- 磁気を利用したカード(キャッシュカード、定期券など)を無線機に近づけないでください。  
磁気カードの内容が消去されることがあります。
- 無線機をほうり投げたり、アンテナを持って無線機を持ち運んだりしないでください。
- 機器を水の中に入れてください。  
多少の雨の中でも使用できますが、水につけると故障の原因になります。
- 本機は、防まつJIS 4級(日常生活防水構造)の防水性を施していますが、雨にぬれたときなどは、乾いた布で拭いたあと、ケースと本体を別々にして十分に乾かしてください。
- 清掃するときは、シンナーやベンジンを使用しないでください。  
ケースが変質したり、塗装がはげる原因になります。  
ふだんは柔らかい布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤を少し含ませて拭いてください。
- 市販の単3形ニカド電池は、使用しないでください。  
電圧のばらつきや接触抵抗によって、発熱、液もれ、故障の原因になります。


## ◆おねがい

- ◎特に他局の通信を妨害したり、通話の内容を他に漏らし、これを窃用することは、電波法でかたく禁じられています。
- ◎使用できるのは、日本国内に限られています。
- ◎本製品は、厳重な管理のもとに生産、出荷されていますが、万一ご不審な点、お気づきの点などがございましたら、できるだけ早くお買い求めいただいた販売店、または弊社営業所へご連絡ください。

## ◆おことわり

- ◇この取扱説明書は、予告なく変更することがあります。
- ◇本文の操作説明に使用している操作図や状態表示は、操作時の一例ですから、ご使用の機器の状態と一致しないことがあります。
- ◇操作図の中でスイッチをふつうに短く押すときと、長く(1秒以上)押すときの区別を次のように表現しています。

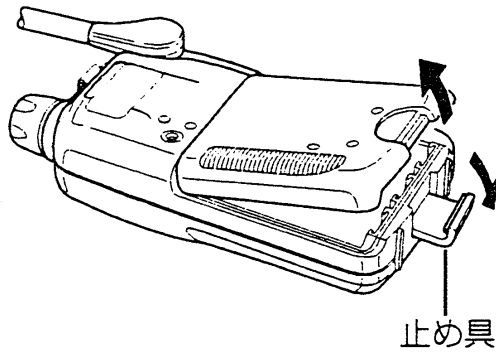
 → 短く押すとき

 → 長く(1秒以上)押すとき

- ◇操作の説明で、UPスイッチは【△】スイッチとし、DOWNスイッチは【▽】スイッチとして表現しています。
- ◇ビープ音(操作音)などは、出荷時の初期状態で説明していますので、運用中に各種の設定を変えている場合は、説明とちがうことがあります。

### ■電池を入れる

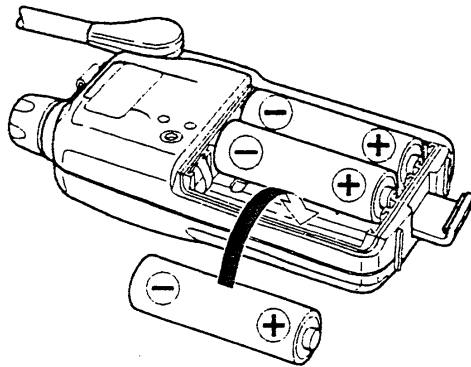
#### ①電池カバーをはずす



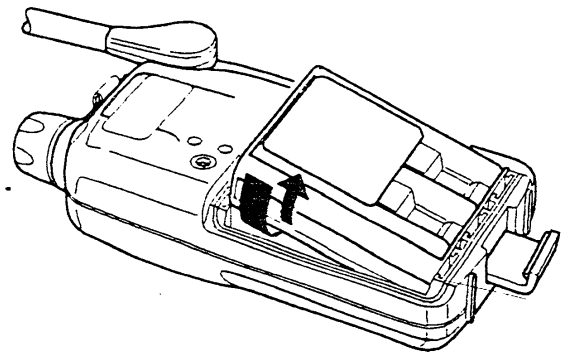
- ①電池カバーの止め具をはずし、電池カバーを取りはずします。  
 ●電池カバーの止め具をかたくしてありますので、コインなどを利用してはずしてください。

- ②市販の単3形電池を3本用意し、プラス(+)、マイナス(-)をまちがえないように入れてください。

#### ②電池を入れる

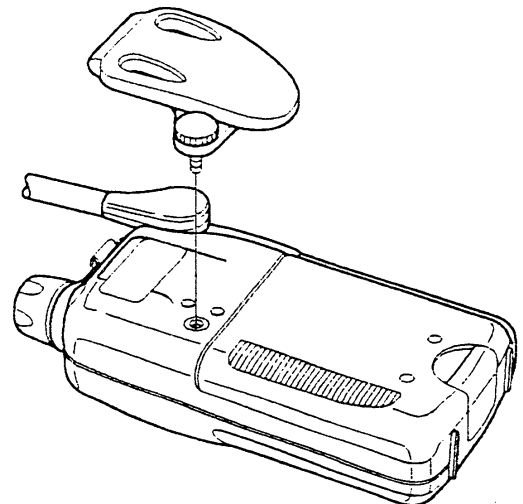


### ■バッテリーパックのはずしかた



### ■ベルトクリップを取り付ける

本体背面に取り付けます。  
 運用中にゆるまないよう  
 しっかりとネジをしめつ  
 けてください。



### ■アンテナを立てる

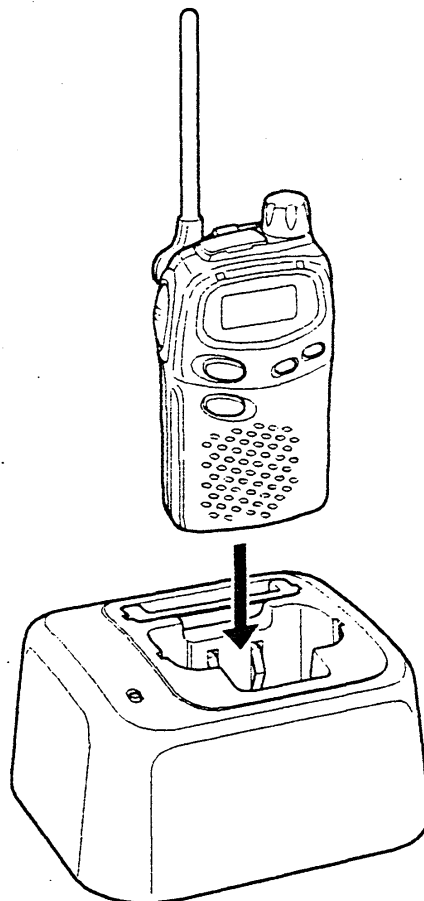
運用するときは、必ずアンテナを立ててください。  
アンテナを閉じておくと、極端に感度が悪くなり、交信できません。



### ■充電する (BP-202使用時)

別売のバッテリーパックをお買い上げいただいたときは、必ず充電してください。

《お願い》  
バッテリーパックおよび充電については、28～30ページを必ずお読みください。



# 3

## 各部の名称と機能

### ■ 前面部



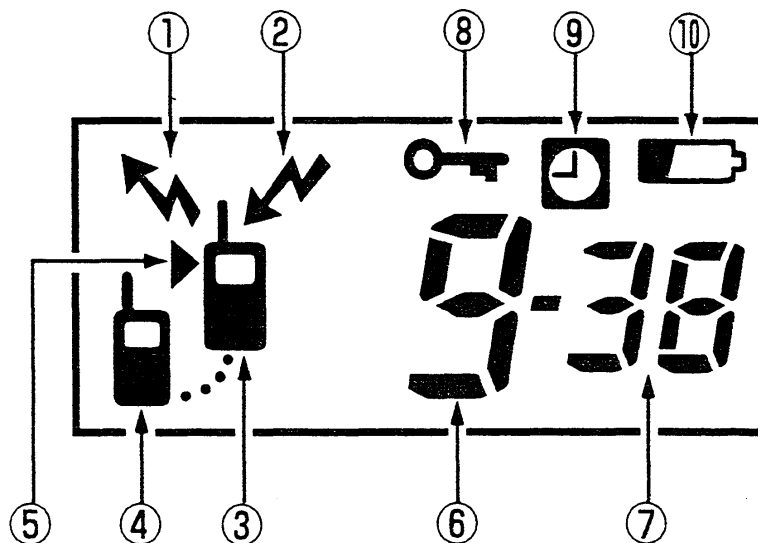
名 称	おもな機能
①POWER(電源) スイッチ	本機の電源を“ON/OFF”するスイッチです。 電源を“ON”にすると1秒以上押すと、キ ーロック機能(P.24参照)が動作します。
②MODE(モード) スイッチ	通常の運用モードと、グループ番号の設定モー ドを切り替えるスイッチです。 また、このスイッチを1秒以上押すと、モニタ ー機能(P.23参照)が動作します。

③PTT(通話) スイッチ	送信と受信を切り替えるスイッチです。 スイッチを押しながら、マイクに向かって話してください。 スイッチを離すと、受信ができます。
④UP(アップ)/ DOWN(ダウン) スイッチ △/▽〔注.欄外〕	通話チャンネルを切り替えるスイッチです。 1回押しごとにチャンネルがアップ/ダウンし、押し続けると連続動作になります。 グループ番号設定モード時は、グループ番号の設定ができます。
⑤VOL(音量) つまみ	音量を調整するつまみです。 右に回すと、音が大きくなります。
⑥アンテナ	電波を発射したり、受信する部分です。 通話しないときは、本体背面に収納できます。
⑦スピーカーマイク 端子	別売品のスピーカーマイク、ヘッドセットなどを接続する端子です。 接続しないときは、ホコリや雨を防ぐため、ゴムカバーでフタをしてください。
⑧表示部	運用状態を表示します。(P.15参照)
⑨マイクロホン部	超小型のマイクロホンを内蔵しています。 別売品のスピーカーマイク、ヘッドセットなどを接続すると、内蔵マイクは動作しません。
⑩スピーカー部	超小型のスピーカーを内蔵しています。 別売品のスピーカーマイク、ヘッドセットなどを接続すると、内蔵スピーカーは動作しません。
⑪電池収納部	単3形乾電池または指定の充電式バッテリーパックを入れる部分です。

〔注〕このページ以降の操作説明では、UPスイッチを【△】スイッチに、DOWNスイッチを【▽】スイッチとして説明しています。

### 3 各部の名称と機能

#### ■ 表示部



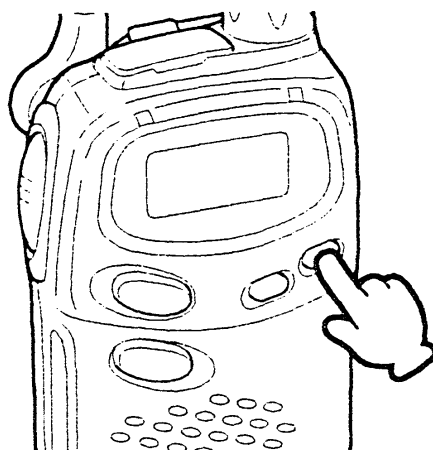
①送信表示	送信中を表示します。
②受信表示	受信中を表示します。
③自局表示	自局を表わし、他の表示との組み合わせで自局の送受信状態を表示しています。
④圏内/圏外表示	圏内確認機能が“ON”のとき、相手局が通信圏内(点灯)か圏外(点滅)かを表示します。
⑤ワンタッチPTT表示	ワンタッチPTT機能が“ON”であることを表示し、送信しているときは点滅し、受信しているときは点灯します。
⑥チャンネル表示	通話チャンネルの番号(1~9)を表示します。
⑦グループ番号表示	グループ番号(1~38)を表示します。
⑧キーロック表示	キーロック機能が“ON”のとき、点灯します。
⑨オートパワーオフ表示	オートパワーオフ機能が“ON”のとき、点灯します。
⑩電池残量表示 (電池マーク)	電池の容量が少なくなると点灯します。 さらに少なくなると点滅します。



## 1 電源を入れる

【電源】スイッチを押します。

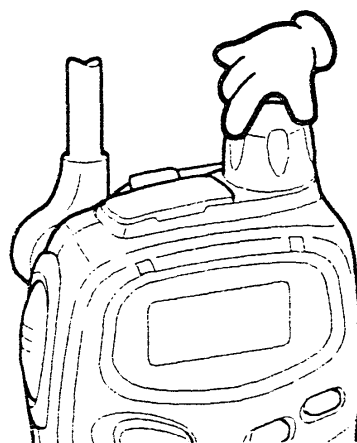
- “ピピッ”音が鳴り、表示部が点灯します。
- 電源を切る前に使用していた状態の表示になります。



## 2 音量を調整する

【音量】ツマミを回します。

- 信号を受信していないときは、【MODE】スイッチを1秒以上押しすと、「ザー」という雑音が出ますから、その音で調整してください。調整後はもう一度【MODE】スイッチを1秒以上押ししてください。

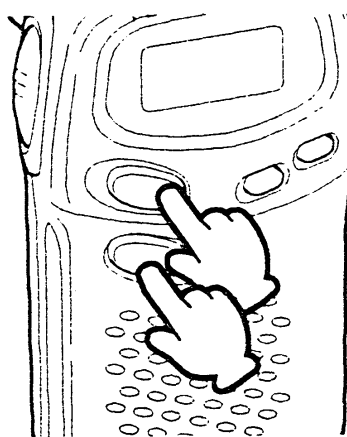


## 3 通話チャンネルを合わせる

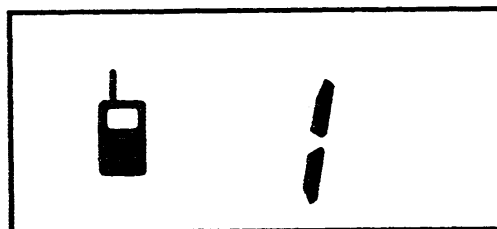
【△】または【▽】スイッチを押し、チャンネル(1～9)を設定します。

- 相手局と通話チャンネルを合わせていないと交信できません。

※ 【△】/【▽】スイッチは、押し続けると連続動作しますが、1チャンネルになると“ピピッ”音が鳴り、止まります。いったんスイッチを離すと、再操作ができます。



例.通話チャンネルを1に設定



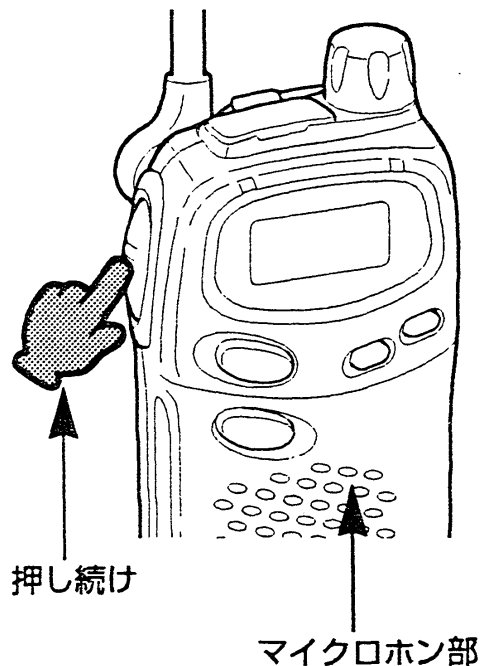
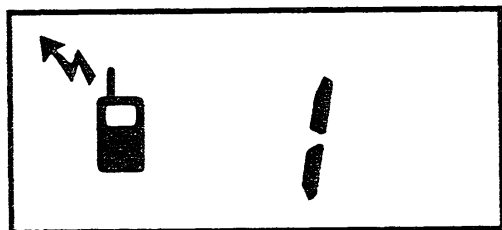
## 4 交信のしかた

### 4 送信する

【PTT】スイッチを押しながら、マイクロホン部に向かって通話相手局を呼び出します。

- 送信中(【PTT】スイッチを押している間)は、表示部に送信表示が点灯します。

送信中の表示例

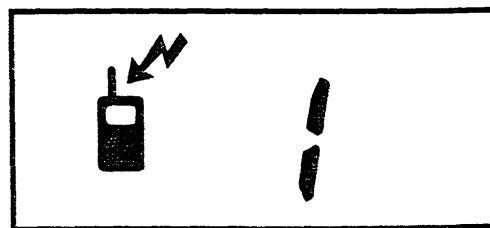


### 5 受信する

【PTT】スイッチを離すと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば声が聞こえ受信になります。

- 受信中は、表示部に受信表示が点灯します。
- 待ち受け状態のとき、送信、受信表示は消灯しています。

受信中の表示例



受信表示は、通話相手以外の信号(同一チャンネルで他局が交信中)を受信しているときも点灯します。

### 6 交信する

送信と受信は、交互に行います。相手局が送信しているときは、【PTT】スイッチを押しても“プッププ”が鳴り、送信できません。送信の終わりに「どうぞ」をつけ加えると、交互の会話がスムーズになります。

#### ■電源を切るときは

【POWER】スイッチを少し長く押します。

※表示部の表示が消えるまで押し続けてください。

## 交信時のアドバイス

### ■通話時間の制限について

連続して通話できる時間は「3分以内」と電波法で定めています。通話時間が終了する10秒前になると、「ピー」音で知らせます。通話時間が3分になると「プッププツ」と連続音が鳴り、自動的に通話が切れます。また、3分以内でも2秒以上通話が途切れると自動的に通話切れになります。

◇通話が切れると2秒間は休止時間になり、回線はつながりません。2～3秒後【PTT】スイッチを押し、呼び出しをすれば通話を再開できます。

### ■交信範囲について

電波の届く範囲は、周囲の状況(建物や山など)により異なりますが、おおよそのめやすは次の通りです。

- 見通しのよい場所：約2km
- 郊外：約1～2km
- 高速道路：約500m
- 市街地：約100～200m

◇交信範囲であっても、建物のかげなどに入りますと、受信しにくくなる場合があります。

そのときは、場所を少し移動して交信するようにしてください。

### ■マイクロホンの使いかた

マイクロホンに向かって話すときは、口元から5cmほど離し、普通の大きさの声で話しかけてください。

マイクロホンを近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって明瞭度が悪くなりますのでご注意ください。

### ■相手局の声が途切れたり弱くなるときは、モニター機能を使う

受信中に相手の声が聞こえにくいときは、【MODE】スイッチを1秒以上押すと、モニター機能が動作し、音が途切れなくなります。

ただし、通信の状況により効果のない場合があります。

[モニター機能の使いかた→P.23参照]

# 5

## 圏内確認のしかた

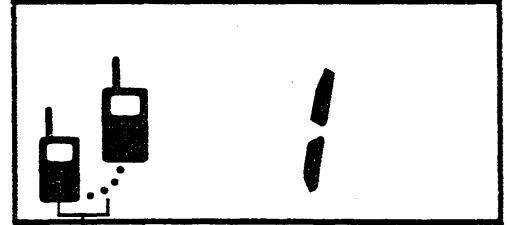
圏内確認機能は、交信する相手局が圏内(電波の届く範囲)か、圏外かを自動的に判別する機能です。

### 1 圏内確認機能を“ON”にする

【PTT】スイッチを押しながら【MODE】スイッチを押します。

- 圏内表示が点灯します。

上記操作をするごとに、圏内確認機能が“ON/OFF”します。



圏内表示点灯(設定後約5秒間)

### 2 圏内/圏外を確認する

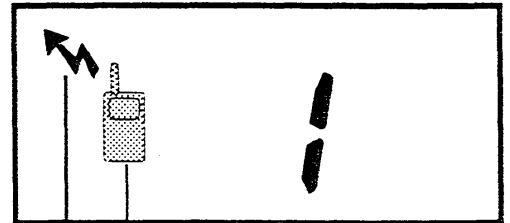
上記の操作をすると約5秒後に1回目の圏内確認動作(自動的に)をします。

◆相手局が圏内なら→圏内表示：点灯

◆相手局が圏外なら→圏内表示：点滅

以後、圏内確認は自動的に1分間隔で動作し、変化があれば表示を変えます。

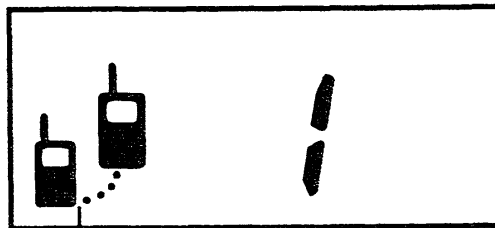
圏内確認動作中の表示



点滅

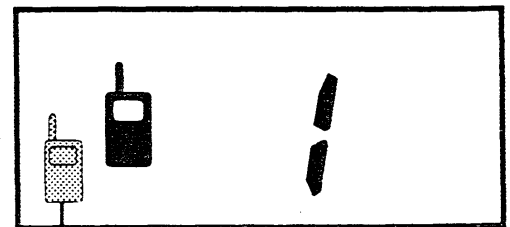
約2秒間点灯

相手局が圏内のとき



点灯

相手局が圏外のとき



点滅

### 3 交信する

圏内表示になっているときは、いつでも交信ができます。

圏外表示のときは交信できません。

### ■圏内確認機能を“OFF”にするには

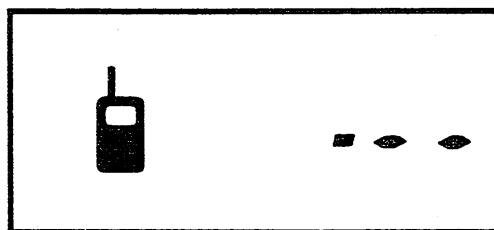
上記1項の操作で、圏内表示を消灯させます。

グループ機能は、通話チャンネルとグループ番号の一致した相手局の声だけしか聞こえなくなるので、特定の相手局またはグループ局との交信をするのに便利な機能です。

## 1 グループ設定表示にする

【MODE】スイッチを押します。

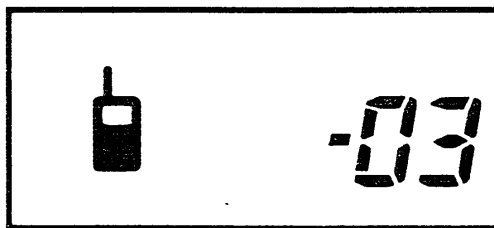
- グループ番号設定表示になります。  
以前にグループ設定している場合は、その番号を表示します。



## 2 グループ番号を設定する

【△】または【▽】スイッチを押すごとにグループ番号が切り替わりますので、使用するグループ番号を選びます。押し続けると連続して切り替えます。  
※押し続けの場合、“---”で止まりますから、押しなおしてください。

例.グループ番号3を設定

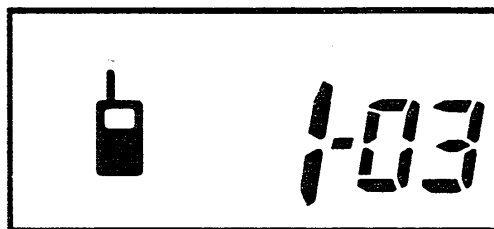


グループ番号は、1～38まで設定できます。

## 3 設定を終了する

【MODE】スイッチを押します。

- 通話チャンネルと設定したグループ番号の表示になります。



- ◎以後、同一チャンネルで同じグループ番号の局だけと交信できます。  
グループ内の交信は、同一グループのすべての局に聞こえます。
- ※グループ以外の局が同一チャンネルを使用中は、交信できません。
- ◎交信のしかたは、16～17ページをご覧ください。

## ■グループ機能を解除するときは

グループ機能を使用しないときは、上記2項の操作でグループ番号を“---”（番号なし）に設定してください。

ベル機能は、通話相手局を呼び出すとき、電話のように呼び出し音(ベル音)を鳴らして呼び出す機能です。

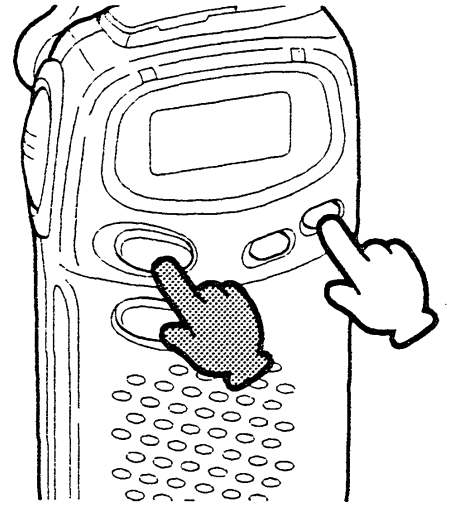
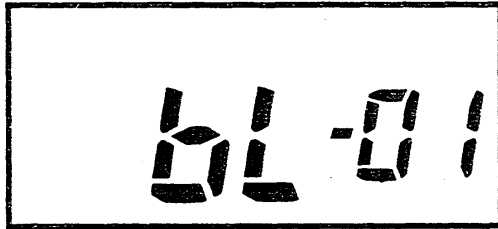
なお、ベルには相手局との接続確認用ベルと、通話中にいつでも送出することができる呼び出しベルがあります。

## 1.ベル音の種類を設定する

### 1 ベル音の設定表示にする

いったん電源を切り、【△】スイッチを押しながら、【POWER】スイッチを押して電源を入れます。

ベル音の設定表示



### 2 ベル音の種類を設定する

【△】または【▽】スイッチを押します。押すごとに表示が切り替わり、同時にそれぞれのベル音を鳴らします。使いたいベル音に設定してください。

- ベル音は10種類あります。

例.ベル音を10番目の種類に設定



◎ 【MODE】スイッチを押し、設定を終了します。

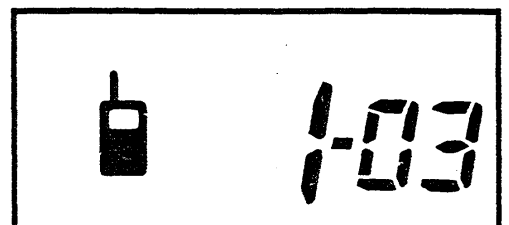
## 2. 接続確認用ベルの使いかた

接続確認用ベルは、グループ運用にしていないと使用できません。

### 1 グループ運用モードにする

※グループ番号が同じでなければ、接続確認用ベルは使えません。

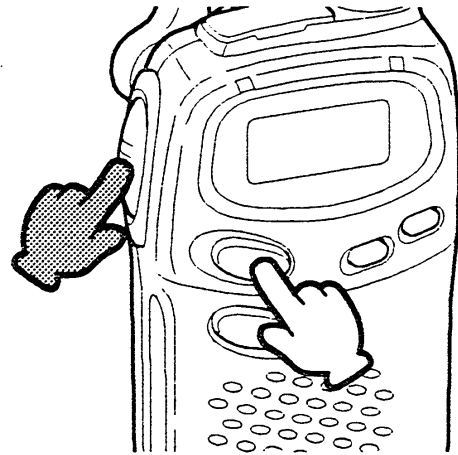
グループ運用の表示例



## 2 接続確認用ベルを送る

【PTT】スイッチを押しながら、【△】スイッチを押したあと、両方のスイッチを離します。

このとき操作音“ピピピピ”が鳴ります。(ベル音ではありません)



- 自動的に接続信号を送出し、相手局との接続確認をします。

- ◆接続ができると、送信側、受信側とも約10秒間ベルが鳴ります。ベル音は、送信側、受信側でそれぞれ前ページで設定した種類のベル音が鳴ります。
- ◆接続ができないときは、送信側で“ブブブ”音が鳴り、ベルを送出しません。(通話相手が圏外、通話チャンネルが異なる場合など)
- ◆ベルが鳴りだしたら【PTT】スイッチを押します。ベルが止まり、通話ができます。(ベルが鳴り終わってからでも通話できます)

## 3. 呼び出しベルの使いかた

呼び出しベルは、通話開始の合図や通話中に相手が出なくなったときの再呼び出しなどに使用できます。

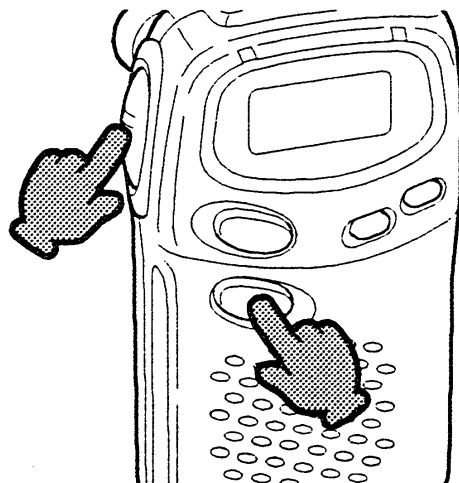
なお、グループ機能のON/OFFに関係なく動作します。

### ■ 呼び出しベルを送る

【PTT】スイッチを押しながら、【▽】スイッチを押します。

スイッチを押している間、前ページで設定したベル音を送ります。

受信側では送信側と同じベル音が同じ時間だけ鳴りますので、個別にちがうベル音にしておけば、呼び出し相手をベル音で判断できます。



- ◆ベルが鳴っているときに【PTT】スイッチを押すと、ベルが止まり、通話ができます。音声を送信中に【▽】スイッチを押すと、音声の送信を止め、ベルを送出します。

## 1. モニター機能の使いかた

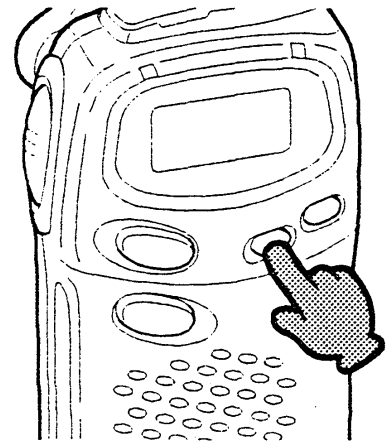
モニター機能は、受信中に相手の音声が届かなくなったり、弱くなったりしたとき、聞こえやすくする機能です。

### 《モニターのしかた》

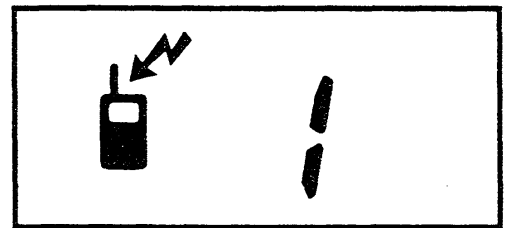
受信音声が聞こえにくくなれば、**[MODE]**スイッチを1秒以上押します。

- モニター機能が動作し、音声が聞こえやすくなります。

※通信の状況により、効果のない場合もあります。



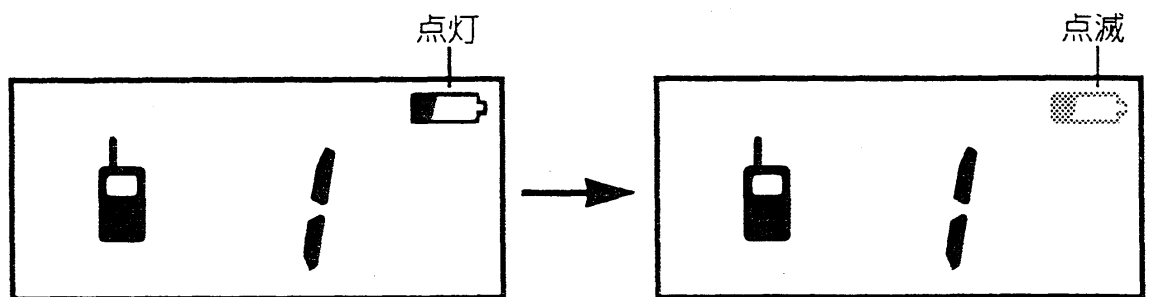
- モニター機能が動作中は、受信表示が点灯します。



■モニター機能を解除するときは、もう一度**[MODE]**スイッチを1秒以上押します。

## 2. 電池の残量表示について

電池の容量が残り少なくなると、表示部に電池マークが点灯し、さらに少なくなると点滅します。



電池容量が少なくなったとき

さらに少なくなったとき

- ◆乾電池の場合、点滅したらすべて新しい電池と交換してください。
- ◆バッテリーパックBP-202の場合、点灯したら充電してください。



### 3.キーロック機能の使いかた

不用意にスイッチに触れても、設定内容(表示)が変わらないように、スイッチ操作を無効にする機能です。

キーロック中は、表示している相手と交信する操作だけができ、交信以外の操作をできなくしています。

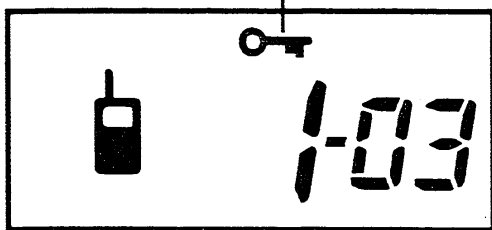
#### 《キーロックのしかた》

いったん電源を切ります。

【POWER】スイッチを約2秒ほど押すと、電源が入りキーロック表示が点灯します。



キーロック表示



キーロックにすると、【MODE】スイッチおよび【△】、【▽】スイッチの操作を無効にします。

#### 《キーロック中の操作範囲》

キーロックにしているときは、下記の操作だけができます。

- ◇電源のON/OFF操作
- ◇PTTスイッチによる送信操作および受信
- ◇VOLツマミによる音量調整
- ◇PTTと△/▽スイッチによるベル送信
- ◇キーロックの解除

◎キーロック中は、いったん電源を切ってから各種の機能を設定する操作も無効にしています。(ベル音の設定やリセット操作など)

■キーロックの解除は、キーロックにするときと同じ操作をし、キーロック表示を消灯させます。

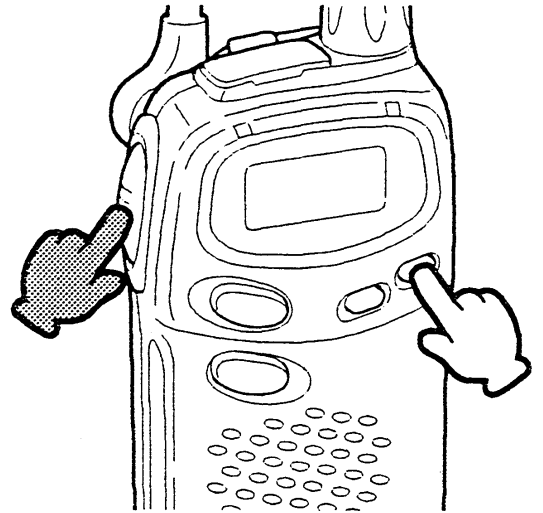
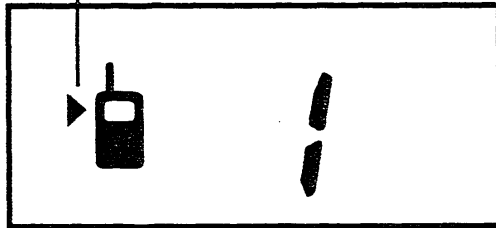
### 4.ワンタッチPTTの使いかた

通常PTTスイッチは押している間送信し、離して受信になります。ワンタッチPTTは、PTTスイッチを1回押すごとに送信と受信を切り替える機能で、PTTスイッチの押し続けを省くことができます。

#### 《設定のしかた》

いったん電源を切り【PTT】スイッチを押しながら【POWER】スイッチを押して電源を入れます。

ワンタッチPTTの表示



◎以後、PTTスイッチを1回押すと送信状態になりますから、PTTスイッチを押さずにマイクに向かって呼びかけます。もう1回押すと送信が切れ、受信状態になります。

■ワンタッチPTTの解除は、上記設定と同じ操作をして、ワンタッチPTT表示を消灯させます。

### 5.ビープ音のON/OFFのしかた

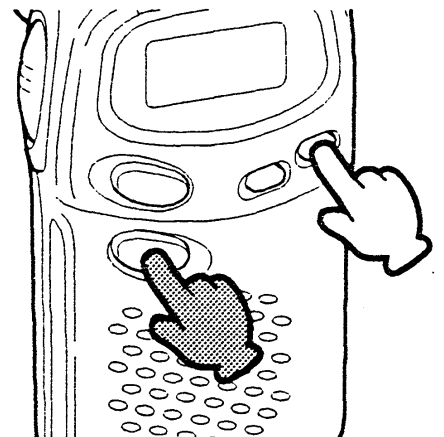
スイッチ操作をしたときに鳴る操作音を、ビープ音といいます。このビープ音をON/OFFすることができます。

#### 《ON/OFFのしかた》

いったん電源を切り【▽】スイッチを押しながら【POWER】スイッチを押して電源を入れます。

- 上記操作をするごとにON/OFFが切り替わります。

※操作時以外に鳴る警告音や状態告知音はこの設定に関係ありません。



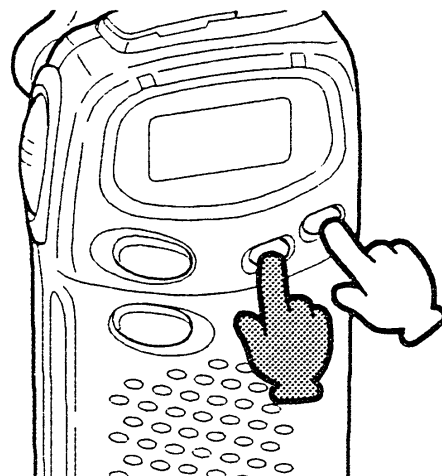
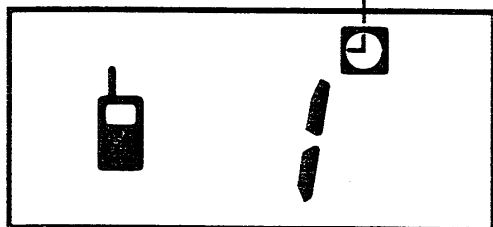
## 6. オートパワーオフ機能の設定

なにも操作しない状態が2時間以上続くと、自動的に電源を切る機能で、電源を切り忘れても安全です。

### 《設定のしかた》

いったん電源を切り【MODE】スイッチを押しながら【POWER】スイッチを押して電源を入れます。

オートパワーオフ表示



◎以後、スイッチ操作をしない状態が2時間になると、自動的に電源が切れます。

電源が切れる1分前に“ピピピピピ”が鳴り、電源が切れる直前には“ピピ”を5回鳴らします。

◎なにか操作をしたり、電源をON/OFFすることによりオートパワーオフの2時間タイマーがスタートします。

■オートパワーオフ機能の解除は、上記設定と同じ操作をして、オートパワーオフ表示を消灯させます。

## 7. その他自動的に動作する機能

### ◇表示部の自動照明

スイッチ操作をすると表示部に照明が点灯します。

この照明は、操作しない状態が5秒続くと、自動的に消灯します。

### ◇パワーセーブ機能

パワーセーブは、送受信および操作のない状態が5秒以上続くと、機器を自動的に休止状態にします。

電池の消耗を最小限に抑えるための機能で、自動的に動作します。

# 9

## 別売品とその使いかた

本機をさらに効率よく、便利にお使いいただくため、下記の別売品を用意いたしました。

BP-202	ニカドバッテリーパック(3.6V, 700mAh)
BC-119L	BP-202専用急速充電器
HM-74	スピーカーマイク
HM-75A	リモコン機能付スピーカーマイク
HS-85	VOX機能(音声による送受信切り替え機能)付 ヘッドセット

■バッテリーパックおよび充電器をご使用になる前に

### ⚠ 警告

- ◎バッテリーパックおよび急速充電器は、ご使用前に『安全上のご注意』(3~9ページ)を必ずお読みになり、正しく安全にお使いください。
- ◎バッテリーパックBP-202は、専用充電器BC-119L以外で充電しないでください。
- ◎充電器BC-119LでBP-202以外のバッテリーパックや、乾電池類を充電しないでください。
- ◎上記BP-202およびBC-119Lを、本機システム以外の目的で使用しないでください。

## 1. バッテリーパックBP-202について

### ■充電時期について

- バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、長期間（約2ヵ月以上）使用していなかったときは、必ず充電してください。
- 表示部に電池マークが点灯すると、数回の交信はできますが、すぐに点滅に変わり使用できなくなります。

電池マークが点滅になる前に、充電することをおすすめします。

### ■運用時間のめやす

BP-202の運用時間のめやすは、次のようになっています。

- ◆送信1分：受信1分：待ち受け8分(1：1：8の時間比)の割合で使用した場合、約24時間です。

### ■バッテリーパックの充電時のご注意

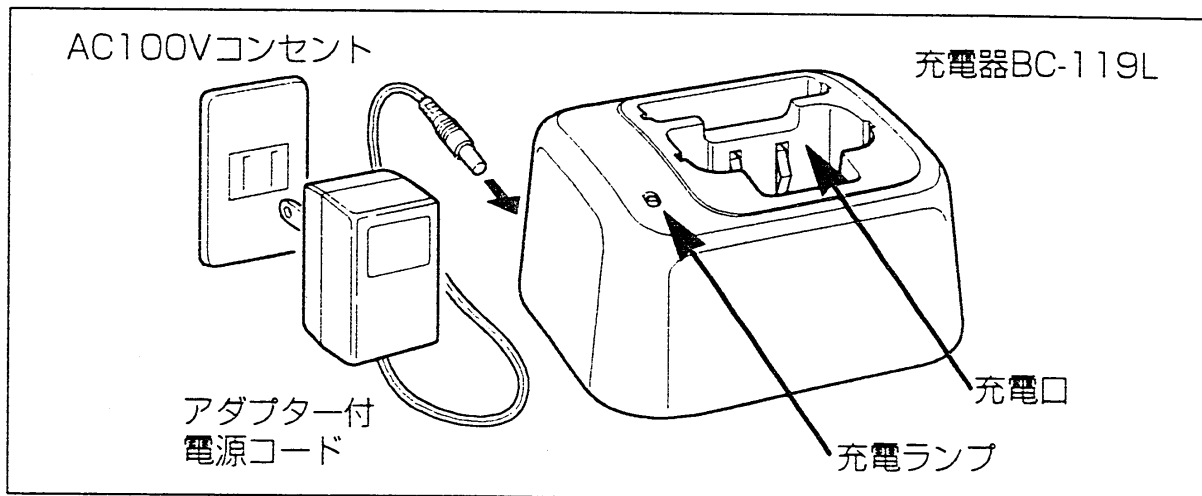
- ◎バッテリーパックを無線機本体に装着したまま充電するときは、必ず無線機の電源を切って充電してください。
- ◎バッテリーパックの寿命(充電回数)は、正しく充電されていれば、約300回がめやすです。  
指定時間充電しても、運用時間が極端に短くなりだしたときは、バッテリーパックの交換時期です。
- ◎充電するときの温度範囲は、+10℃～+40℃です。  
極端な高温・低温になる場所では、充電できないことがあります。
- ◎バッテリーパックが満充電になったのち、短時間運用して(電池の容量がまだ十分あるとき)繰り返し充電すると、見かけ上電池の容量が低下した状態になります。  
このときは、電池を完全に放電(電池を使いきる)してから、再充電してください。  
短時間運用して充電の繰り返しは、電池の劣化にもつながりますのでおやめください。

## 2.急速充電器BC-119L について

### ■充電のしかた

#### 1.電源を接続する。

AC100Vコンセントに、付属の電源コード(アダプターつき)で接続してください。



#### 2.バッテリーパックまたは無線機を充電口にセットする。

充電するときは、次ページの図のように無線機本体のまま充電する方法と、バッテリーパック単独で充電する方法があります。

バッテリーパックを単独で充電するときは、充電口の中央部に仕切板を差し込みます。

バッテリーパックの向きに注意して(右図参照)セットしてください。

#### 3.充電中は、充電ランプが橙色に点灯します。

#### 4.充電が完了すると、充電ランプは緑色に変わります。

#### ◎充電時間は、約70～80分です。

電池の残容量により、ばらつきがあります。

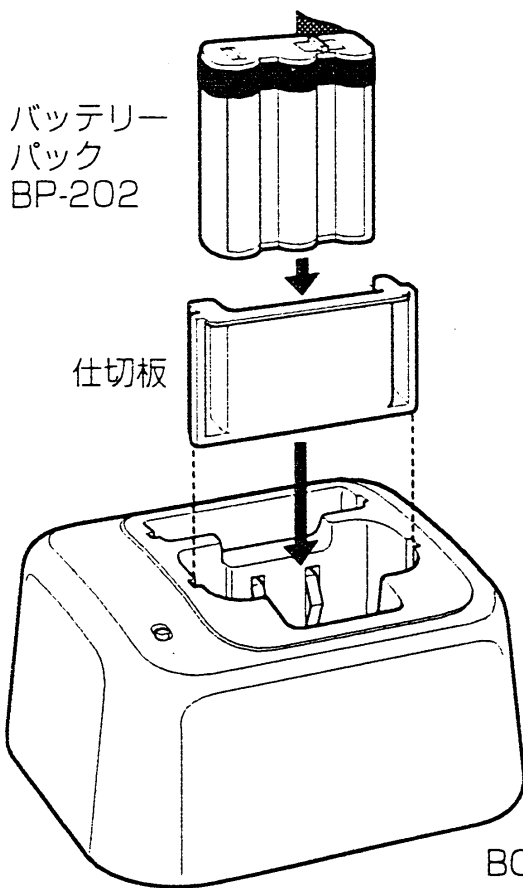
### ⚠ 警告

充電しないときや充電完了後は、安全のため電源コードをACコンセントから抜いてください。

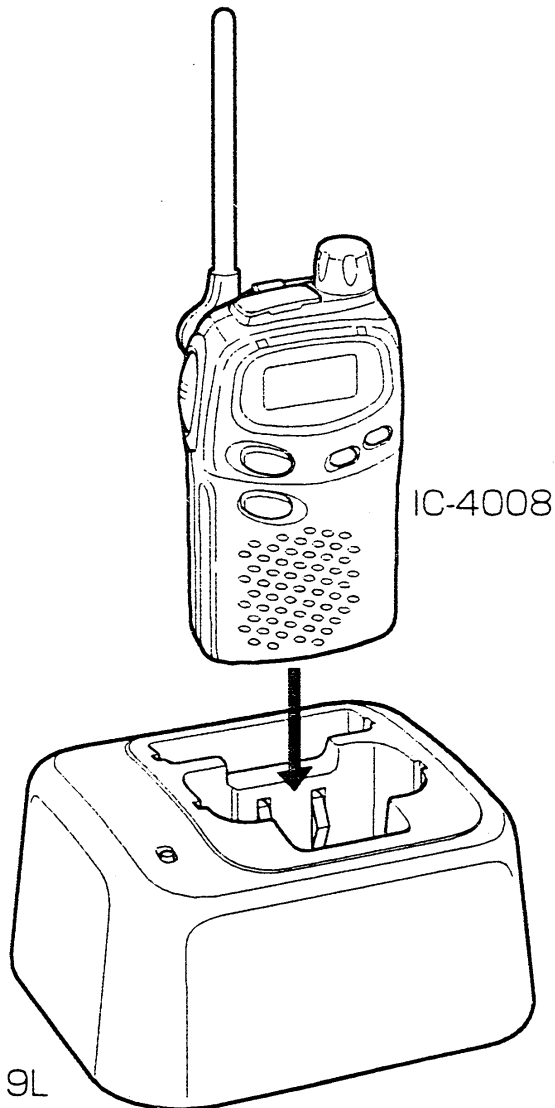
充電方法

◇バッテリーパックを単独で充電するとき

※バッテリーパックを反対向きにセットすると、充電ランプ(橙色)は点灯しません。



◇バッテリーパックを本体に装着したまま充電するとき



⚠ 注意

充電完了後のバッテリーパックを、繰り返し充電しないでください。満充電のバッテリーパックを、充電器に差し込んだり抜いたりを繰り返すと過充電になり、バッテリーパックの寿命が短くなります。また、バッテリーパックおよび充電器が発熱する原因になりますので、ご注意ください。

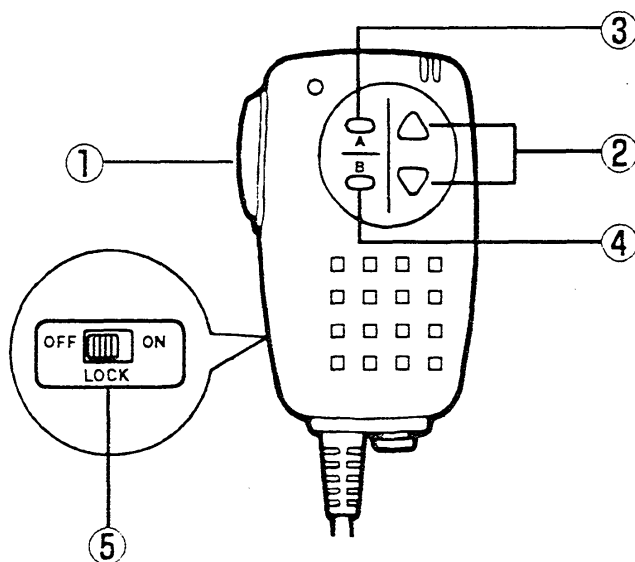
## 9 別売品とその使いかた

### 3.スピーカーマイクHM-75A について

HM-75Aは、本体スイッチの操作と同じ操作を手元でできる、リモコン機能付きの便利なスピーカーマイクです。

本体上部のスピーカーマイク端子に接続してください。(右図参照)

#### ■HM-75Aの使いかた



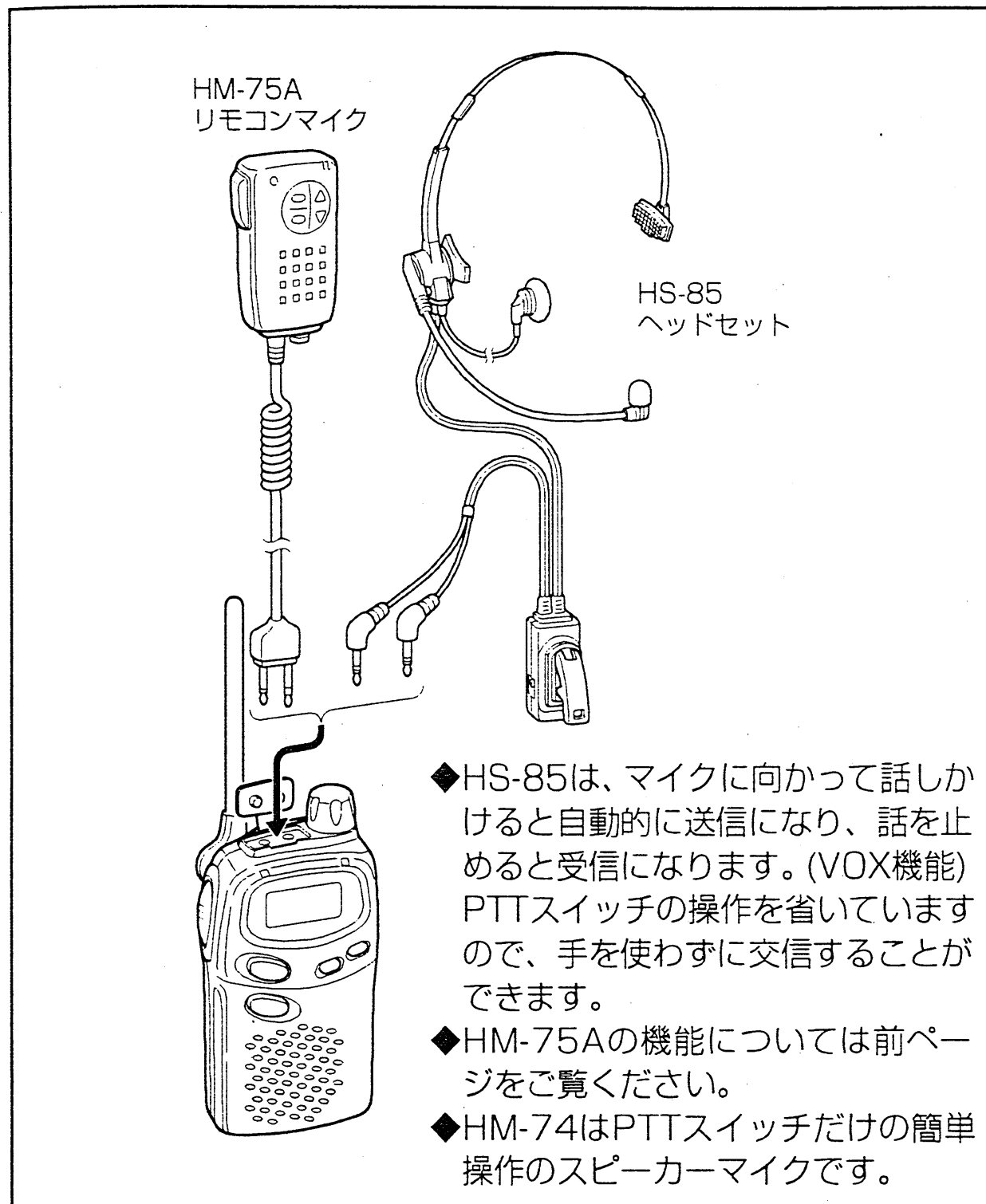
①PTTスイッチ	本体PTTスイッチと同様に、送受信を切り替えるスイッチです。 ※ワンタッチPTT機能は使えません。
②△/▽スイッチ (UP/DOWN)	本体△/▽スイッチと同様に、チャンネルまたはグループ番号のアップ/ダウンおよびPTTスイッチと併せてベルの送信ができます。
③Aスイッチ	接続確認用ベルを送出するスイッチです。
④Bスイッチ	このスイッチは、押している間だけモニター機能をONにします。
⑤LOCK スイッチ	HM-75Aの裏面のスイッチで、上記②③④のスイッチをキーロックし無効にします。



## 4.スピーカーマイク/ヘッドセットについて

スピーカーマイクまたはヘッドセットは、下図のように本体上部のスピーカーマイク端子に接続します。

スピーカーマイクを接続すると、本体のスピーカーおよびはマイクは、動作しなくなります。



# 10 保守について

## ■故障かな？と思ったら

下記のような症状は故障ではないことがありますので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。

症 状	原 因	処 置
電源が入らない	電池の極性まちがい	極性を確認して入れなおす
	電池の消耗	乾電池を入れ替える バッテリーパックの場合は 充電する
チャンネルまたは グループ番号が切 り替わらない	キーロック機能が働 いている	いったん電源を切り、 POWERスイッチを約2秒 押し、キーロック表示を消 灯させる
送信できない (プッププッが 鳴る)	3分間の通話制限時 間がすぎたとき	2～3秒待つてから、もう 一度送信する
	他局が送信している とき	受信表示が消灯してから送 信する
呼び出しをしても 相手が出てこない	相手と通話チャンネ ルまたはグループ番 号が合っていない	相手局と設定を合わせる ※設定が合っていれば相手 が不在、電源断等が原因
交信できない	相手との距離が離れ すぎている	場所を移動してから交信し てみる
	アンテナを閉じたま まにしている	アンテナを完全に立てる
	圏外表示（点滅）に なっているとき	圏内表示（点灯）に変わる まで待つ

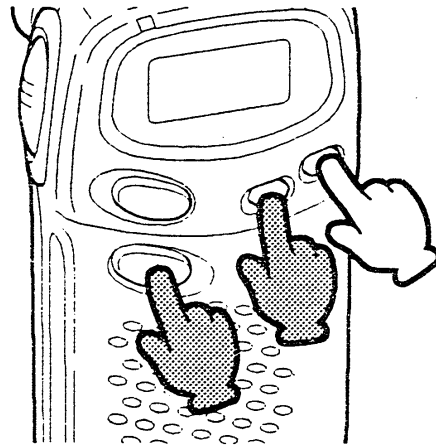
## リセットのしかた〔初期状態に戻す〕

前ページの処置をしても以上があるとき、あるいはいろいろな機能を設定したが初期状態に戻したいときなどは、次のリセット操作をすると、工場出荷時の状態になります。

### リセット操作のしかた

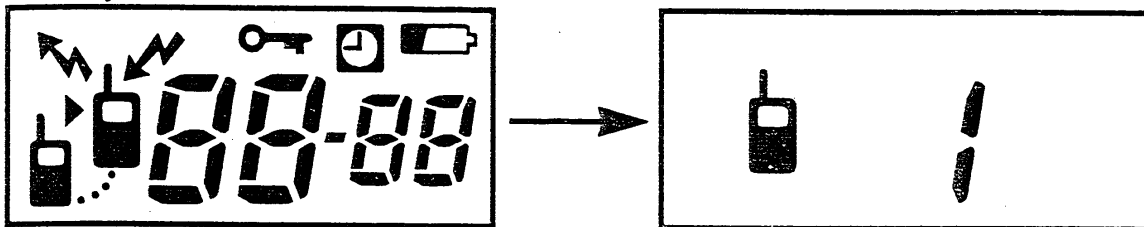
いったん電源を切り、【MODE】スイッチと【▽】スイッチを押しながら、【POWER】スイッチを押して電源を入れます。

- 約 3 秒間すべての表示が点灯したのち、チャンネル 1 だけの表示になります。



約 3 秒間全点灯

通話チャンネル 1 に戻る



◎キーロック(キーロック表示点灯)にしていると、リセット操作はできません。キーロックを解除してください。(P.24参照)

### 《リセット後の状態》

リセット操作をすると、設定していた機能が次のように初期状態に戻りますから、運用に必要な機能は再設定してください。

- ◇通話チャンネル : 1 (P.16参照)
- ◇グループ機能 : OFF (P.20参照)
- ◇キーロック機能 : OFF (P.24参照)
- ◇ワンタッチPTT機能 : OFF (P.25参照)
- ◇ベル音の種類 : bL-01 (P.22参照)
- ◇オートパワーオフ機能 : OFF (P.26参照)
- ◇ビープ(操作音)機能 : ON (P.25参照)

## 10 保守について

### ■故障のときは

製品は、すべて厳重な品質管理と、厳しい検査により出荷されていますが、万一故障が発生したときは、お買い上げの販売店または弊社営業所まで、故障状況をできるだけ具体的にご連絡ください。

### ■アフターサービスについて

#### 保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

#### 修理を依頼されるとき

「故障かな?と思ったら」(P.33)にしたがってもう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

- 保証期間中は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

- 保証期間後は

お買い上げの販売店にご連絡ください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

#### アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社営業所サービス係まで、お問い合わせください。

- 弊社各営業所のお問い合わせ先は、この取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

## ■日常のお手入れと点検について

- ◎ふだんのお手入れは、やわらかい布で拭いてください。  
汚れのひどいときは、水でうすめた中性洗剤を少し含ませて、拭いてください。  
特に充電器の充電端子部は汚れやすいため、ときどき点検し、清掃してください。
- ◎無線機を使用される前(業務の開始前)に、電池の容量が十分あるか、電池マークを確認(電池マークが消灯していること)してください。  
また、電池は完全にセットされているか、アンテナは最良の状態に引き出しているかを確認してください。
- ◎音量が最小あるいは最大にセットされていないか、音量ツマミの位置を確認してください。  
受信音が聞こえやすい位置にセットしておきます。
- ◎定期的に決まった位置の相手局と通話して、交信状態に変化がないかを調べてください。
- ◎機器が雨にぬれたときなどは、電池を取りだし、乾いた布で本体と電池をよく拭き、十分に乾かしてください。  
特に電池収納部分は、よく拭いてください。  
また、別売品を接続していた場合も、別売品を本体からはずし、水分を拭きとってから、十分に乾かしてください。

# 11 定 格

## ■IC-4008の定格

送 受 信 周 波 数	422.2000~422.3000MHz
通 信 方 式	単信方式
チ ャ ン ネ ル 数	9チャンネル
電 波 型 式	F3E(8K50F3E) IDはF1D
周 波 数 安 定 度	±4ppm(-10°C~+50°C)
使 用 温 度 範 囲	-10°C~+50°C
電 源 電 圧	DC4.5V(動作範囲3.24~5.0V)
消 費 電 流	送信時：70mA以下 受信待ち受け時：50mA以下 受信最大出力時：140mA以下 パワーセーブ時：約23mA
送 信 出 力	10mW (+20/-50%)
低 周 波 出 力	100mW(4.5V/8Ω負荷/10%歪時)
変 調 方 式	可変リアクタンス周波数変調
受 信 方 式	ダブルスーパーヘテロダイン
受 信 感 度	-14dBμ以下 12dB SINAD
外 形 寸 法	102.5(H)×55.5(W)×26.5(D)mm 突起物は除く
重 量	約180g(乾電池を含む)

## ■BC-119Lの定格

入 力 電 圧	DC12~16V、1A (専用ACアダプター使用)
使 用 温 度 範 囲	+10°C~+40°C
保 存 温 度 範 囲	-20°C~+60°C
重 量	約270g
寸 法	60(H)×120(W)×104(D)mm

## ■BP-202の定格

定 格 電 圧	DC3.6V
電 流 容 量	700mAh

# 操作の早見表

操作の種類	スイッチ操作	参照ページ
電源のON/OFF	POWER	P.16
音量の調整	VOL(ツマミ)	P.16
チャンネル/グループの切り替え	MODE	P.20
チャンネルのアップ/ダウン	UP[△]/DOWN[▽]	P.16
グループ番号のアップ/ダウン	UP[△]/DOWN[▽]	P.20
送信/受信の切り替え	PTT	P.17
圏内/圏外表示のON/OFF	PTT+MODE	P.19
接続確認用ベルの送付	PTT+UP[△]	P.21
呼び出しベルの送付	PTT+DOWN[▽]	P.22
ベル音の種類の設定*	1.UP[△]+POWER 2.UP[△]/DOWN[▽]	P.21
モニターのON/OFF	MODE(1秒以上)	P.23
キーロックのON/OFF*	POWER(約2秒)	P.24
ワンタッチPTTのON/OFF*	PTT+POWER	P.25
ビープ音(操作音)のON/OFF*	DOWN[▽]+POWER	P.25
オートパワーオフのON/OFF*	MODE+POWER	P.26
リセット操作*	MODE+DOWN[▽] +POWER	P.34

※印のついた操作は、いったん電源を切ってから、右のスイッチ操作をしてください。

スイッチ操作の+記号は、○○スイッチを押しながら××スイッチを押す操作のことです。

高品質がテーマです。

---

---

---

## アイコム株式会社

本社	547	大阪市平野区加美東6-9-16	
北海道営業所	060	札幌市中央区大通東9-14	TEL 011-251-3888
仙台営業所	984	仙台市若林区若林1-13-48	TEL 022-285-7785
東京営業所	130	東京都墨田区緑1-22-14	TEL 03-5600-0331
名古屋営業所	466	名古屋市昭和区長戸町2-16-3	TEL 052-842-2288
金沢出張所	921	金沢市高畠1-335	TEL 076-291-8881
大阪営業所	547	大阪市平野区加美南1-8-35	TEL 06-793-0331
広島営業所	733	広島市西区観音本町2-10-25	TEL 082-295-0331
四国営業所	760	高松市塩上町2-1-5	TEL 0878-35-3723
九州営業所	815	福岡市南区塩原4-5-48	TEL 092-541-0211